

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	神崎市立千代田東部小学校		
1 前年度 評価結果の概要	・「『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成」の目標達成に向け、学力向上対策、ボランティア活動の取組、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」児童99.1%、「自分にはよいところがある」児童98.3%というアンケート結果で、前年度よりも上回ることができた。向上心や自己肯定感の伸びがみられ、今後も維持できるように取組を継続していく。 ・家庭学習の習慣化については、「家で勉強ができています」児童92.2%であった。次年度も家庭での生活習慣と併せ、継続して児童だけでなく保護者にも積極的に働き掛けていく。また、1人1台端末の活用も、時間を掛けながら少しずつ定着してきた。今後も、授業中や授業外、家庭での効果的な活用方法を模索し、学習意欲、学力の向上へとつなげていく。		
2 学校教育目標	「渾身勉強」「白鳥蘆花に入る」 ～ 夢に向かって、気づき・考え・行動する児童の育成 ～		
3 本年度の重点目標	・自己肯定感をもち、自分を律することができる児童の育成 ・思いやりと協力の心をもち、ふるさとを愛する児童の育成 ・自己実現に向け、学びに向かう児童の育成		

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○家庭学習の習慣化	○「学年にあった時間、家で勉強ができています」と回答する児童80%以上	B	・「学年にあった時間、家で勉強ができています」と回答した児童86.3%で達成した。今後も、児童への称賛と保護者への啓発を図る。学習習慣が定着していない児童には、個別対応を行う。	A	・学力向上便りや学校便りにて児童の頑張りを保護者に伝え、家庭学習の協力をお願いしたことで、学習習慣の定着ができてきた。また、学級担任や保護者による称賛により、学習意欲の向上が見られた。「学年にあった時間、家で勉強ができています」と回答した児童89.6%で達成した。	A	・毎日の学年の学習時間の指標は、分かりやすくよい。 ・学年でも毎日1時間、皆集中して取り組むことができています。 ・家庭学習がよくできているので、学力向上につながっていると思われる。	学力向上CO		
	○児童の主体的な学びにつながる授業づくり	○授業の最後に振り返りを行うことで次時の学習につながったと思う教師80%以上 ○タブレットを使うことで、楽しく学習できたと思う児童80%以上		A	・授業の最後に振り返りを行うことで次時の学習につながったと思う教師100%で達成したので、2学期も授業改善のため、教職員への共通理解を図る。 ・タブレットを使うことで、楽しく学習できたと思う児童99%で達成した。今後も継続して、学力向上につながるような学習を推進する。	A	・授業の最後に振り返りから学習の意欲や理解度を知り、教師が児童の言葉を使って次時学習の導入に生かすことができた。授業の最後に振り返りを行うことで次時の学習につながったと思う教師100%で達成した。 ・タブレット利活用により、児童の情報活用能力が向上し、児童の積極的な対話活動や考えの共有につながった。その結果、タブレットを使うことで、楽しく学習できたと思う児童99.1%で達成した。	A	・低学年からタブレットを大いに活用した方がよいと思う。 ・タブレットPCを適切に使用するよう、子供たちへの指導をお願いしたい。 ・学習環境に恵まれ、たくさん情報を得て、子供たちは幸せだと思う。	学力向上CO	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳教育に関する以下のアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒90%以上 ・自分やまわりの人の命を大切にしていると思う。 ・人には親切にしたいと思う。	A	・「自分やまわりの人の命を大切にしている」と思う児童99%、「人には親切にしたいと思う」児童90%で達成した。今後も継続していく。 ・7月に全校授業研修会を実施し道徳科の授業の流れを共通理解したので、今後も授業実践を通して自他のよさを認め合い、よりよく生きようとする心を育てる。	A	・「自分やまわりの人の命を大切にしている」と思う児童99%、「人には親切にしたいと思う」児童92%で2%上昇し、どちらも目標を達成することができた。 ・2学期に2回、道徳科の授業研究会を実施したことで、職員の授業力向上と児童の道徳的実践意欲の高まりにつながった。	A	・東部小の子供たちは優しい子が多く、特に上級生から下級生に対する言動に思いやりがある。 ・他人を思いやることがいじめに防止につながると思う。 ・相手の事を自分の事のように思う感じる心が、日頃の教育で育っていると思う。	研究主任 自分づくり部		
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等についての組織的対応ができていますと回答した教員95%以上	A	・毎月1回行う「心アンケート」の結果や気になる子の情報を生徒指導連絡会で全職員と共有する。 ・SCや地域の方を含めた、いじめ防止対策委員会を行う。	A	・いじめの早期対応のため、月1回の「心アンケート」の結果と気になる子の情報を毎月全職員で共有した。その結果、いじめ防止等について組織的対応ができていますと答えた職員は100%であった。 ・いじめ防止対策委員会を実施し、SCや地域の方とも共有することができている。	A	・職員アンケートの結果は100%。2学期も毎月の心アンケート結果や気になる子の情報交換により、全職員で見守り対応することができた。 ・SCのアドバイザーなどにより早期対応ができ、不登校の児童はいない。全児童が元気に登校することができた。	A	・いじめなどの対応に、学校が迅速に動かれていて素晴らしいと思う。 ・これからも、不登校ゼロ、いじめの早期発見をしてほしい。 ・心の木の取組がとても良いと思う。	生徒指導主任 教育相談主任
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	A	・ミニ研修(フリートークタイム)において、全職員で児童の良さを共有する。 ・マナー教室やキャリアパスポートの振り返りを通して、発達段階に応じた夢や目標が具体化できるようにする。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」児童は、95.1%で達成した。今後もほめるを重ねていきたい。 ・「将来の夢や目標を持っている」児童は、98%で達成した。マナー教室等の取組において、近い将来の目標がほぼ決まった、将来の夢が定まったりしてきた。さらに、夢や目標が具体化できるようになる。	A	・教職員が児童のよさを見つけてメッセージを渡したり、温かい言葉で褒め、認めたりすることで、児童の自己肯定感や自己有用感が高まった。研修会で共有することもできた。「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」児童は、96.2%で達成した。 ・マナー教室の取組やキャリアパスポートの振り返りから、将来の夢や目標に向かって頑張ろうとする児童の意欲が見られた。その結果、「将来の夢や目標を持っている」児童は、98.1%で達成した。	A	・マナー教室の取組を継続してほしい。 ・スターシールやマナー教室などが、子供たちのやる気、自信に繋がっていると思う。 ・今後キャリアパスポートを振り返ることで、好きなことが見つかると思う。	学びづくり部
	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童50%以上	A	・晴れた日は外遊びを推奨する。 ・保健・運動委員会を中心に遊びの企画や運営を行い、運動やスポーツに取り組む機会をつくる。	A	・保健・運動委員会主催のイベントやなかよしタイムを使っている子に実施することができた。「昼休み外で元気に遊んでいる」児童は90%であった。また、5年生のうち56%の児童が授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上だった。今後も遊びの企画や運営、スポーツチャレンジへの参加を呼び掛けていく。	A	・保健・運動委員会主催のイベントやなかよしタイムを使っている子に実施することができた。「昼休み外で元気に遊んでいる」児童は86.5%であった。また、高学年のうち50%の児童が授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上だった。 ・どの学年もスポーツチャレンジに取り組む、県上での記録を目指して授業外でも協力して練習する姿が見られた。次年度もスポーツチャレンジへの参加を呼び掛けていきたい。	A	・子供たちが自分たちでイベントを考え主体的に取り組むことは、将来社会の中で暮らしていくことに必要だと思う。子供たちが、自分で決める機会を増やしていくことが大切であると考える。 ・縦割り班での活動は、大人社会での人間関係を学ぶ基になると思われる。 ・スポーツチャレンジで賞をもらい、子供たちはますますやる気が湧いてきそうだ。	体育主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○学年に応じた就寝時刻を守る児童の割合85%以上	A	・月1回の保健だよりや長期休業前の生活の話などを通して、基本的生活習慣の大切さ(家庭での過ごし方)を啓発していく。	A	・保健だよりや長期休業前の話で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。「早く寝ることができている」児童は94.5%だった。「早寝早起き朝ごはん」を行っている保護者は85.3%だった。早起きの実態把握が不十分なため、実態把握をし、継続して啓発をしていきたい。	A	・保健だよりや長期休業前の話、学級指導で啓発し、望ましい生活習慣が向上している。学校生活アンケートの「早く寝ることができている」と答えた児童は91.9%で目標を達成することができた。しかし前期より減っていたので、次年度は生活朝会で児童へ、保健だよりで家庭へさらに啓発していく。	A	・数年前に比べると、早く寝ることができていない児童が少し減ったように感じる。「早寝早起き」が大切。 ・健康第一。これからも、規則正しい生活習慣を目指してほしい。	生徒指導主任 養護教諭
	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ・月の時間外在校時間45時間を超える職員25%未満	A	・18:30までの全職員退勤と毎週金曜日の定時退勤日を周知徹底し、毎日18:00に営業掛けを行う。職員室において退勤時刻の15分前に音楽を流し、在校時間に対する意識を高める。	A	・毎週金曜日の定時退勤日は、概ね守ることができた。また、時間外在校時間は昨年度より減り(－5時間46分)、45時間を超える職員13%であった。職員の業務改善が進み、意識も高まった。さらに、見通しをもつて自主的に定時に帰れるよう、言葉掛けを行っている。	A	・毎週金曜日の定時退勤日は、18:30までに施設することが多くなった。12月までの時間外在校時間は昨年度より減り(－7時間57分)、45時間を超える職員9.3%とさらに減少した。今後更に、具体的な対応(校務に係る部会の推進・連携強化、行事の早めの提案等)を取っていく。	A	・ノー残業デーの設定など、さらに業務改善を推進してほしい。 ・先生方の退勤が早くなっているようでよかった。	教頭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	○働きやすく、疲労蓄積の低減を目指した働き方改革の推進	○「疲労蓄積度自己診断チェックリスト」での「負担度 やや高い」職員の割合15%未満	B	・朝の健康状態に加え、退勤予定時刻を出動時に記入し、見通しをもって業務に取り組む、効率化を図る。	A	・7月上旬に「疲労蓄積度チェック」を実施し、「やや高い」以上の職員が2名(13%)だった。昨年度より減少しているので、さらに働きやすい環境づくりの推進や、養護教諭、SC等と連携して相談しやすい関係づくりに努めていく。	A	・1月に「疲労蓄積度チェック」を実施し、「やや高い」以上の職員が1名(5.6%)だった。7月と比較すると、1名減少した。職員室の雰囲気よく、見通しをもって気持ち良く仕事ができていると考える。今後も、教頭として養護教諭やSC等と連携し、ライン・セルフケアの働きかけを継続して行っていく。	A	・メンタルヘルスの研修を継続し、今後も心身ともに健康維持に心掛けてほしい。 ・学校にきた時、職員室の雰囲気が良い。笑顔が多い。	教頭 養護教諭
	○一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	○配慮を要する児童の指導・支援に取り組んでいると回答した教員95%以上	A	・年4回、職員研修を行い、必要な指導・支援について共有する。	A	・配慮を要する児童の指導・支援に取り組んでいると回答した教員が、100%であった。1学期中に2回研修を行い、児童の特性について理解を深めた。今後も、情報交換をしながら取り組みを重ねる。	A	・2学期末のアンケートでも配慮を要する児童の指導・支援に取り組んでいると回答した職員は100%であった。学校行事ごとに配慮を要する児童について関係職員で研修を行ったことで、連携しながら個に応じた対応をすることができた。	A	・配慮が必要な児童に対し、学校全体で支援されていると思う。 ・児童個々への対応に苦労があると思うが、今後よりよろしく願いたい。	特別支援教育CO

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○地域の特色を生かした教育	○地域教材の活用 (「次郎の里」教育の実践)	○「千代田の町や人が好き」と回答する児童95%以上	A	・「千代田の町や人が好き」と回答する児童が99%で達成した。次郎週間や一日体験学習において、児童が下村湖人生家館長の話を聞くことで、次郎物語の興味・関心を深めた。6年生は、学んだことを生かしながら、次郎物語の劇に取り組む、次郎集会で下学年にも分かるように伝えることができた。	A	・「千代田の町や人が好き」と回答する児童が100%で達成した。次郎週間において、低学年は次郎カルタに慣れ親しみ、3年以上は次郎検定に取り組むことで、次郎物語や下村湖人生家のことを集中して学ぶことができた。今後も年間を通して、地域教材「次郎物語」の学習を継承していく。	A	・地域の歴史・文化を学ぶことは、とても良いと思う。今後も継続してほしい。 ・温情がある東部地区の住民、「次郎っ子」、下村湖人生家を、今後も大切にしていきたい。	教務主任 学びづくり部	
		○「白鳥蘆花に入る」の精神が生きるボランティア活動等の体験活動の充実		◎ボランティアパスポート1冊以上100% ◎進んで元気なあいさつをする児童90%以上		B		・1学期終了時点で、ボランティアパスポート1冊以上クリア約90%。 ・「進んで元気なあいさつをする」と回答した1学期末の児童アンケート98.2%。		A

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「『夢に向かって、気づき・考え・行動する』児童の育成」の目標達成に向け、学力向上対策、ボランティア活動の取組、マナー教室等を実施することができた。その結果「自らの夢や目標を実現に向けて努力する」児童99.1%、「自分にはよいところがある」児童100%というアンケート結果で、前年度よりも上回ることができた。向上心や自己肯定感の伸びがみられ、今後も維持できるように取組を継続していく。 ・家庭学習の習慣化については、「家で勉強ができています」児童95.5%であった。次年度も家庭での生活習慣と併せ、さらに定着できるよう保護者にも積極的に働きかけていく。また、1人1台端末の活用も、学校だけでなく家庭への持ち帰りも増え、定着してきた。今後さらに、効果的な活用方法を模索し、学習意欲や学力の向上へとつなげていく。
--------------------	---